令和２年度　こどものみらい保育園　自己評価分析と今後の課題

１．対象者

保育職員６名（内訳：正規職員５名、パート職員１名）

２．方法

「教育・保育の計画性」「保育の在り方、３歳未満児への対応」「保育者としての資質や能力・良識・適性」「保護者への対応・守秘義務」「地域の自然や社会との関わり」「保育者の専門性」の６つの大きな評価項目より、当法人の理念や方針を考慮して計８８個の評価項目を作成した。（別紙参照）

３．評価・分析方法

「１　よくできている」「２　まあまあできている」「３　あまりできていない」「４　まったくできていない」の４段階で回答を求めた。また、集計した回答について基本統計処理を行い、そ　の結果をもとに園内研修にて話し合い、今後の課題について話し合った。

※対象者が少ないため、分析結果はあくまで傾向とする。

４．結果

Ⅰ．教育・保育の計画性（１：２５％，２：６２％，３：３％，４：０％）

８７％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課　題】

①もう少し子どもの興味・関心に添えるように計画を作成できると良かった。子ども一人ひとりの状態をしっかりとらえ、関わりをより深めていくと同時に、保育内容について新しい知識を身に付けていく。

②日々の保育での子どもへの関りや行事の目的・意義を職員間で共有/検討し、保護者に理解をしてもらえるように努める。日常での会話や懇談会の機会を有効活用し、保護者に発信していく。

③子どもが遊び込める環境を整えられるよう、さらに玩具の素材や量を増やしていく。手作り玩具やその時の子どもの関心・育んでいきたい内容に合ったものを検討・作成し、スピーディーに保育現場で使えるようにしていく。

Ⅱ．保育の在り方、３歳未満児への対応（１：４１％，２：５７％，３：２％，４：０％）

９８％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課　題】

①個々の発達について、進級までに育みたい姿を学期ごとに検討しているが、担任同士の共有が不足していると感じる場面があったので、日々少しずつでも話し合い、同じ想いで保育をしているかを確認していく。

②制止や禁止の言葉を言わないように心掛けていても、使ってしまう時があった。一人ひ

とりに合わせた時間配分や子どもをやる気にさせる声掛けができるように心掛けていく。

Ⅲ. 保育者としての資質や能力・良識・適性（１：４４％，２：５５％，３：１％，４：０％）

９９％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課　題】

①新しい保育内容や導入内容を取り入れる。保育に関する書籍や研修への参加、菜園活動について知識をつけ、実践に繋げていく。

②マスクをしていて表情が見えづらい分、言葉の選択や声のトーンなどを意識して関わる。

Ⅳ．保護者への対応・守秘義務（１：５７％，２：３７％，３：６％，４：０％）

９４％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課　題】

①コロナ禍で保護者方と懇談できる機会が少なかった。保護者方と懇談できる機会を伺いつつ、園の方針や子どもの成長について話し合える機会を確保していく。また、掲示・配信などの方法を用いて保育者がどのようなねらいや目標を持ちながら日々保育を行っているのかを発信していく。

②保護者と情報交換した内容を、全員で共有できるように記録をしっかりとっていく。

Ⅴ．地域の自然や社会との関わり（１：３８％，２：４２％，３：１８％，４：２％）

８０％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課　題】

①就学までの繋がりを意識しながら、短期・長期の目標を立て、スモールステップで子ども達に提供できるように計画を立てていく。

②保育者と地域の方々との関わりをみて、子ども達から地域の方々へ挨拶する姿が増えてきた。引き続き保育者が率先して挨拶する姿を手本として見せていきながら、子どもが自ら挨拶できた時は、できたことを認め、習慣づけられるようにしていく。

Ⅵ. 保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度（１：３３％，２：６２％，３：５％，４：０％）

９５％の職員が、「よくできている」又は「まあまあできている」と評価した。

【課　題】

①保育中の危険な箇所について、ヒヤリハットなどを用いて共有し、保育者が気づきを持った上で危険予測ができるようにしていく。

②コロナの影響により、外部研修への参加機会が減少してしまった。リモート研修など園にいながらでも参加できる研修に参加できるようにしていく。自ら学ぶ姿勢を持ち続ける。